



近世人物誌

やまの新聞附録第六

武田耕雲齋別室 時子
 時子の旧水戸藩の老臣武田伊賀守源止生の別室なり。正生は耕雲齋と号す。藩主烈公の知遇を得て文武に通じ。智勇を兼ねた。烈公尊王攘夷の議に熱心あり。項常に側侍。謀を献したるよし多し。烈公逝去の後も尚その遺志を承げんとせしが。藩中反對黨これに阻み。且逆名を附いてこれを擯けしむ。これを誅せんと兵を起して常州筑波山野州大平山等を轉戦せしが。幕兵及對黨を撲けて戦ひより衆寡敵せずして軍破る。一は京都に奔つて表情を林闕に訴ふ。闕は欲し轉じて加州に入りか。道便りて通せし。遂に入金澤藩に降る。時子も然始これに隨ひしが。降参後田丸稻子等と俱く越前敦賀にて斬らる。

辞世
 万ねてみればと思ふとわがの
 花も白くやうと紙一き



馬

發行所 東京 京橋区 屋敷町三丁目一番地 やまの新聞社
 編輯人 中泉 隆太郎

刀活圓

